

川崎市外国人市民代表者会議



KAWASAKI CITY
川崎市

ニュースレター No. 35

編集・発行：市民・子ども局人権・男女共同参画室 2008年12月14日発行

<http://www.city.kawasaki.jp/25/25zinken/home/gaikoku/>

ちがいを越えて～第7期スタート～

川崎市外国人市民代表者会議 第7期 委員長 趙 龍濟

代表者会議には、第1期から「日本語を母語としている外国人」、「日本語を母語としない外国人」とが、混在している。その中には母語を使えない外国人も含まれている。

「母語を使わず日本語を母語とする外国人」と書くと何やら早口言葉のようだが、私も含め、どの国籍も2世代というのは、渡来してきた親世代の苦労や言葉の壁の悩みを、肌で感じながら、なおかつ大半が属する日本の教育現場での居心地の悪さを、身に染みて育てている訳だから、その分、アイデンティティや伝統文化等へのこだわりは、いい意味でも、悪い意味でも非常に強い。

反面、代表者同士で会話をしている、ふと、海を越えてやってきた世代は、たくましいなと思う時がある。そういう時は、完全に日本人の目線である（日本人ではないので）。

そのような代表者が、縁あって外国人市民として意見交換できる場が、ここにある。お互いが持つ多種多様な価値観、取り巻く生活環境の違いを理解しあい、協力しあえなければ、日本社会での共生実現は、遠く及ばない。

われわれは、川崎市に生活の場をおく多様化した外国人の代表なのだから、より住みやすい環境作りのために、限られた期間ではありますが、大事に、また真摯に、がんばっていきましょう。



教育文化部会と社会生活部会

会議の報告

～2008年5月～9月～



第7期の外国人市民代表者会議では、26名の代表が2つの部会に分かれて話し合いをします。

「教育文化部会」では教育について広く話し合いをします。たとえば、学校での外国にルーツを持つ子どもへの支援や日本語教育、そして学校や地域での多文化理解教育などについて、問題点や新しいアイデアを探していきます。「社会生活部会」で

は、医療と共生生活という2つの視点から話し合います。医療では通訳ボランティアや災害時の医療について。共生生活では人権・差別・市民文化・市民参加の問題など議論していきます。

オープン会議では、代表者以外の外国人市民や日本人市民の意見を聞き、よりよい提言をつくっていききたいと思います。

便利メモ：2007年度、多言語相談窓口で1500件を超える相談がありました。生活の中で困ったこと・悩んでいることを相談してください。外国人市民相談コーナー（電話：044-435-7000、<http://www.kian.or.jp/soudan.html>）。詳しくはニュースレター34号を見てください。

だいひょうしゃかいぎ しんぎがいよう
代表者会議 審議概要

だい かい だい にち がつ にち
第2回 第1日 (6月15日)

ぶかい せっち
 部会の設置

せいふくぶかいちよう せんしゆつ
 正副部会長の選出

きよういくぶんかぶかい
 ・教育文化部会

ぶかいちよう ちようがくほう ふくぶかいちよう きんよんどく
 部会長 張学峰 副部会長 金勇徳

・社会生活部会

ぶかいちよう ぼくへすく ふくぶかいちよう あでいかり すでいーぶ
 部会長 朴海淑 副部会長 アディカリ ステイブ

だい かい だい にち がつむい
第2回 第2日 (7月6日)

きよういくぶんかぶかい
 教育文化部会

・市の日本語学習支援

かいがい りん 一つ も じどう せいと ぼご しえん
 海外にルーツを持つ児童・生徒に母語で支援を

おこな にほんごしどうとうきようりょくしゃはげんせいど しみんかん
 行う日本語指導等協力者派遣制度と、市民館やふ

れあい館で行われている日本語学級について話

し合いました。

社会生活部会

・医療情報・医療通訳

がいこくご しんさつ びやういん りすと など利用でき

る多言語情報の使いやすさ、専門用語の難しさに

ついて意見交換しました。またどのような医療

通訳が必要か議論しました



だい かい だい にち がつ にち
第3回 第1日 (9月28日)

きよういくぶんかぶかい
 教育文化部会

・市の多文化理解教育について

がいこくじんしみん がっこう じゆぎょう おこな みんぞくぶんかこうし
 外国人市民が学校で授業を行う民族文化講師

ふれあい事業や、外国人市民が中心となつて文化

の紹介や母語教育などおこなっている市民自主

がっきゅう しみんじしゆきかくじぎょう りかい ふか
 学級・市民自主企画事業について理解を深めました。

社会生活部会

・医療情報・医療通訳について

市の外国人のための医療ガイドがもっと使われ

るようにするために必要なことを考えました。ま

た神奈川県医療通訳派遣システム事業について

調べました。

*外国人代表者会議ホームページから

議事録を読むことができます。

しんだいひょうしゃ しょうかい
☆新代表者の紹介

都合により代表を辞退した方の代わりに、

新たに代表者が選出されました。



なまえ いん さんさん
 名前 殷 珊珊

こくせき ちゆうごく
 国籍 中国

だいひょうしゃ
 代表者になつての気持ち

多文化共生のまち

川崎の実現に努めましょう。

好きな言葉 有志者事竟成 (志さえあれば必ず成功する)

★ 2008年度 年間スケジュール ★

☆オープン会議 12月14日(日) 場所:高津市民館 時間:午後2時より午後5時まで

*どなたでもご参加いただけます。みなさまと代表者との意見交換を行う開かれた会議です。

☆川崎市外国人市民代表者会議

場所:川崎市国際交流センター 時間:午後2時より午後5時まで

第3回 第2日 11月16日(日)

第4回 第1日 1月25日(日) 第2日 2月22日(日)

*どなたでも傍聴すること(聞くこと)ができます。ぜひ来てください。



●便利メモ ●「川崎市の多言語広報資料一覧」ができました。川崎市では育児・教育から防災まで 100件におよぶ行政の資料が多言語化(翻訳や日本語にルビが付けられたもの)されております。ぜひご利用ください。お近くの区役所、市民館、図書館でご利用いただけます。代表者会議ホームページでも公開中です。

多文化フェスタみぞのくちへ参加

★ 外国人市民代表者会議テント ★



10月18日に開催された「多文化フェスタ・みぞのくち2008」に、市民との交流や相互理解を深めるとともに代表者会議の広報を行うことを目的に参加しました。今年少し風が強かったのですが、よい天気でした。地域の市民みなさんとふれあうことができました。出品したものは「えびせん」、「水餃子」や「ルーマニアの野菜スープ」でした。代表者が力を合わせて作って、多くの市民の方に召し上がっていただきました。

みなさんが楽しみながら作った水餃子の形は人によってまちまちだったのですが、味はすごくおいしかったです。ルーマニアのスープもいろいろな野菜やお肉が入っていて、こちらもおいしかったです。水餃子の形が同じでもいいし、スープにはたくさんの野菜などのバランスがとれたから、おいしかったのだと思います。世の中も同じではないでしょうか？人は一人一人ちがいがあるのは当たり前のことであって、お互いに認めて合うことで自分らしく、楽しく、生きられると思えました。本当に楽しかったです。
(金成美)

★ 多文化フェスタの多文化交流 ★

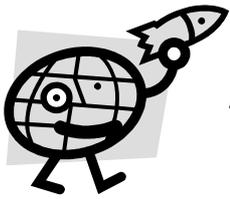
多文化フェスタには今回もいろいろな団体が参加し、多文化ステージやいろいろな文化の料理屋台が開かれました。

わたしたち代表者は料理の準備をしながら、作りたての料理を一緒に料理している他のグループに紹介したり、つくり方を見せたりして交流しました。他のグループの人を誘って、「えびせん」の揚げ方を体験してもらいました。



参加した多くの市民が、多文化ステージで各国の音楽や踊りを楽しみ、自分が住んでいる地域で多文化に触れることができるのは素晴らしいことだと思います。

また、伝統の遊びを紹介するテントにも、人がいっぱい集まってにぎやかでした。子どもたちはおじいさんやおばあさんに手伝ってもらいながら、折紙や紙トンボを作っていました。子どもにも、おじいさんとおばあさんたちにも楽しい一日だったと思います。川崎市がみんなにとって生活しやすい都市になれたらいいな！
(姜弘)



だいひょうしゃ たぶんか きょうせい たいけん
代表者と多文化共生体験

第1回

ねば るじん いろ いみあ
■ネパール人と色の意味合い



ネパールでは人々の生活に「色」はとても意味を持つ。ネパール人、特に既婚女性として一番意味を持つのは服の「色」だ。「赤」は祖先の良い色と言われている。「赤」は生きること、幸せ、幸運を意味する。よって、お祭り、宗教儀式、結婚式に赤色の服を着ることが一般的だ。

一方、「黒」は不幸の色をいわれる。よって、吉事には黒服は着ない。女性は、未亡人になったら赤色の服は着ない。夫がなくなった一年間は白い服を着ることが一般だ。一年が過ぎたら他の色の服を着るが、赤色の服は着ない。

皆様、ネパールへいらっした時、祭り、結婚式などがありましたら、ぜひ赤い服を着てみてはいかがでしょうか。しかし、未亡人の方へ赤色の服の贈り物はいないように気を付けましょう。

(アディカリ スディーブ)

#白・赤・黒の使い方は、文化によって似ている場合もあれば、逆の意味をもっていることもあって難しいですね (編集委員会)



うくらいな にほん ふうしゅう
■ウクライナと日本の風習



外国人というものは顔、言葉がちがうだけではありません。それぞれの国はそれぞれの文化、習慣、教育、それによるちがう考え方、気持ちを表し方もちがってきます。

人は外国に来て、その国の文化、言葉などを勉強します。これと同時にその国の習慣も身に付けようとしています。習っているうちに、“あ、この習慣、あの習慣も私の国の習慣に似ているなあ・・・”と思いつくことがあります。

私はウクライナに生まれ、育ちました。日本に来て、もう10年になります。ある日本の習慣は、ウクライナにもあります。お世話になったとき、感謝の気持ちとして、プレゼントする習慣です。日本では使ってみたら、あるとき複雑な気持ちになったことがある。プレゼントといえば、ケーキか果物ぐらいのもので、ある日、差し上げたら、相手が喜ぶ顔がなく、少し怒ったような顔で受け取って、もちろんお礼の言葉は言われたけど、なぜかあまりすっきりしない気持ちで別れました。感謝の気持ちとして、少しでも相手を喜ばせるはずの習慣なのに、実際に日本で使ってみたら、同じ習慣があっても、差し上げ方、受け取り方あるいは、気持ちを表し方は国によりちがうという気がしてきました。(クシュタ オレナ)

#プレゼントも文化によって様々ですね。日本人はプレゼントをもらうときに、喜ぶ表情をするよりも、かしまった表情で受取る人も多いですね。

(編集委員会)

<お問合せ> 川崎市市民・子ども局人権・男女共同参画室 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1

Tel : 044-200-2359 Fax : 044-200-3914 E-mail : 25gaikok@city.kawasaki.jp

代表者会議やニューズレターへのみなさまのご意見・ご感想をお待ちしています。